

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 3 4 号	2004年5月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

5月2日（日）稲作田に厩肥撒布とビオトープ全般の草刈りを行いました。参加されました19名と藤本さんの御嬢ちゃん2名様ご苦労さまでした。

5月12日（水）中国電力（株）宇部電力所様による草刈り奉仕作業が行われました。草刈り機での刈取困難な樹木の周囲や井垣周りを手刈りで行っていただきました。午前午後にわたって延べ30人の大人で作業していただき大変助かりました

5月15日（土）本日の活動は水路溝普請のつくる会責任範囲の草刈り、溝上げを行い、更に湿地帯観察通路の板張りの補修も行いました。二俣瀬地区が農繁期に入っているため14名の参集でした。少ない会員で大変ご苦労様でした。

5月22日（土）ファミリーサポートセンター行事の見学者107名をご案内いたしました。案内者は西原会員、北村会員、それと原田でした。今の時期これといった特別なものはありませんでしたが、思い思いの場で元気よく走り回っている子どもを見ていると心が和みました。

5月22日（土）午後は里山自然観察隊活動で野鳥保護の会の末村さんほか1名の講師応援を戴き野鳥観察を行いました。参加者 隊員17名、保護者11名、会員9名でした。参加された会員の皆様ご苦労さまでした。

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

5月24日（月）常盤小学校吉本先生ほか2名の先生事前調査ご案内

6月8日（火）常盤小学校2年生 吉本先生ほか95名 ご案内3名募集中

6月10日～18日にて善和園によるボランティア草刈り

行事

参集日 第一日曜日（6月6日）植栽（柳の挿し木）田植え準備、（施肥、代掻き準備、草刈り）

第三土曜日（6月19日）田植え

6月19日（土）里山自然観察隊（昆虫観察）

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

湿地のスゲ類

ビオトープの湿地も初夏を迎えて、いっせいに水草が伸び出しています。一般に地味な湿地の植物の中で、初夏に花穂を付けるので目立つのはスゲの仲間です。スゲは、カヤツリグサ科スゲ属というグループの植物ですが、イネ科とは違って茎が三角形であること、図に示したように、雄花穂と雌花穂が分かれていることで、他のカヤツリグサ科の草とは区別できます。ビオトープの湿地で多く一番面積を占めているのは、カサスゲです。大型のスゲで、昔はこの葉を乾燥させて、笠や蓑を作ったそうで、ミノスゲとも呼ばれます。次は背の低い、オニスゲ。花穂が他のスゲ類より大きく、牙のようにとがっていることからオニスゲ（鬼菅）と名づけられています。アゼスゲは、高さ30～50cmのあまり目立たないスゲです。その名の通り、池の浅瀬や田の溝などの湿った場所に生えるスゲです。花穂が垂れるタイプのスゲは2種類。花穂がずんぐりとしたゴウソと、細長いアゼナルコがビオトープにはありました。ゴウソは、漢字で書くと郷麻といい、田畑の周りに生える麻という意味です。アゼナルコは、田の畦にはえ、花穂が鳴子のように並んで垂れ下がることによります。花穂は雌雄性で、上部が雌花、下部が雄花であることが特徴です。垂れ下がっているため、図では上部が雄花、下部が雌花となっています。実はこのスゲ類、1000年ほど前までは、日本人の生活にはなくてはならないものだったようです。考古学的には、縄文時代の初期、前期には、カサスゲ、アゼナルコ、アゼスゲ、ゴウソなどのスゲ属の草や、マコモな

ど葉の長い草を利用し、ワラ細工に用いられるような、編・組技術で生活用具を作っていたことが明らかになっています。稲ワラが積極的に利用され出すのは、稲の収穫に、鉄鎌を用いるようになった800年代後期と推定されています。ですから、何千年もの長い間、スゲは日本人の暮らしに欠くことのできない植物だったわけです。ピオトープのスゲ類を見て、そんな昔のことに思いを馳せてみるのもいいかもしれませんね。



カサスゲ

オニスゲ

アゼスゲ

ゴウソ

アゼナルコ

4. ピオトープ関連

会員のペンリレーにて、ピオトープへの思いや前向きな提案を書いてもらおうと思っています。原稿を提出願います。

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

4月18日 今日は、みか子ちゃんと、しんたろうくんとあきのりくん私でいきました。12ひきつれました。

4月18日 父とつりをしました。10匹つれました。小さいのばかりでした。 部坂実神子

4月25日 晴れ 始めてきたけど、蛇が多過ぎ!! こわ~い!!

4月25日 16時 今日は暖かい日だったので来てみました。体長約30mmくらいの薄緑色と黒の柄のトンボが元気よくたくさん飛んでいました。野草も咲きほこりとてもきれいでした。下関市 H・O

4月29日 14:00 今日は良い天気です。その陽気に誘われてか、亀も蛇も出てきました。とても良いところでしたから2人で又来ます。もしかして3人いじょうかもしれません。Yoshiya・kayo

4月29日 ヘビもいっぱい。メダカもいっぱいでした。メダカを少しもらって帰ります。大切に育てて増えたら返しに来ます。

5月5日 こどもの日。大人4人と子ども1人できました。便所があれば幸せです。 小野田市 未明 子ども2人と3人で始めてきました。子供会で来たら同かなと下見がてらに来ましたが、夏は暑くて大変かもしれません(親の方が)蛇が泳ぐところを始めて見て、私も子どもも感動しましたが、ヘビが苦手な子はびっくりすることでしょう。あと4つ葉のクローバがいっぱいあってうれしかったです。また弁当を持ってきたいです。6月ごろにくると蛭が飛ぶのが見れますか?夜も楽しみです

子どもさんの絵4つとそのコメントが描いてありましたが省かせていただきます。

5月22日 始めて来ましたが子どもたちが大変喜んでます。ファミリーサポートで来て美味しい焼

きソバをご馳走になりました。自然の中でのびのびと過ごせて今度は家族で来たいと重いまます。

鶴井豊子

5月22日 珍客の飛来 5月22日 18:15 頃蓮田に2羽のカモが楽しく泳いでいた。今の時期に珍しいのでしばらくの間上の道から眺めていた。北へ帰る準備がさかんに何かを食べる仕草をしている。その間約20分くらい西の方へ飛んでいった。遅まきながら北帰行か？無事帰り着くことを祈る。

原田賢治

6、会よりの連絡事項

蛍の観賞について

5月23日ごろにはすでに蛍が見れるようになった。最盛期は毎年6月の初旬であったが今年は若干早くにあらわれたか？他の地域で行われている蛍の鑑賞会はお祭り騒ぎでわれわれの会の里山再生から言えばあまり好ましくないと思う。電灯をつけず粛々と観賞することが専門家（水生昆虫）らしいところであろう。市道から須賀河内川を眺めれば足元は安全であるし高いところから水平および下方向に楽に眺めることが出来る。

7. 編集後記

5月15日{作業日}メダカがいらない。先日の大雨で皆流されてしまったのでしょうか。原因はわかりません。ビオトープの完成から、現状の維持管理作業が続いて少し気持ちがゆるんだと言うのか、面白みが少なくなってきました。{みんなの集りが少ない原因の1つかもしれません。}そんな時、美濃和さんの提案のエコアップ、私には初めて目にする言葉でした。ビオトープというのは、造成から完成を出発点として、毎年生態系をより豊かにしていくエコアップが本来の目的であるので、ビオトープの生態系強化を目指して皆で知恵を寄せ合って今後の方策を話し合う場をつくっていきたいと言われる主旨に賛同です。今までの維持管理においても生態系をよくしていくという方向で行って来たとは思いますが、里山ビオトープ二俣瀬としてのエコアップのポイントを見つけ出し、皆で十分に話し合い、より質の高いビオトープにゆっくりでも前進させていきたいと思えます。もっと多くの方の力が 必要だと思えます。 頑張りましょう。 (松本 フデ子 記)